

秋切りスプレーストックの良品生産のための摘心時期

工 藤 寛 子・三 浦 貴 子*・有 野 賢 三**

(秋田県農業試験場・*雄勝地域農業改良普及センター・**秋田県花き種苗センター)

Top Pinching Time for High Quality Production of Spray Type Stock

(*Matthiola incana* R.Br.) in Autumn

Hiroko KUDO, Takako MIURA* and Kenzo ARINO**

(Akita Agricultural Experiment Station, *Ogachi Regional Agricultural Extension Service Center, **Akita Nursery Center for Flowering Plants)

1 は じ め に

スプレーストックは従来、頂花の第1花着色期、あるいは頂花の1.5輪が開花した時点で摘心するのがよいとされている。秋田県においてはこの時期の摘心では花穂の上方が開いた草姿となり、よりよい草姿のためにはこれより早い時期の摘心が必要であると考えられた。そこで、摘心時期の違いがスプレーストックの草姿のバランス及び切花品質に及ぼす影響を明らかにし、良品生産のための好適摘心時期を検討した。

2 試 験 方 法

- (1) 試験場所 秋田農試 無加温ビニールパイプハウス
- (2) 供試品種 シンフォニーホワイト、シンフォニーラベンダー、シンフォニーレッド、チェリーカルテット、アプリコットカルテット、ブルーカルテット
- (3) 試験区 無摘心、出蕾前(出蕾の1週間前)、出蕾期、頂花破蕾期、頂花着色期
- (4) 試験規模 1区30個体、単区制
- (5) 耕種概要
播 種: 7月26日
播種方法: 水稲育苗箱に条播き
八重鑑別: 8月1日, 4日
定 植: 8月15日
栽植密度: 条間15cm, 株間15cm, 5条植え

施肥量: 基肥 (kg/a) N, P₂O₅, K₂O 各1.5

3 試験結果及び考察

(1) 摘心時期の品種間差異

摘心は出蕾前、出蕾期、頂花破蕾期の間でそれぞれ約1週間程度の開きがあり、シンフォニー系よりカルテット系の方が2~3日程度早かった。また、従来の摘心時期である頂花着色期での摘心開始日は、頂花破蕾期の摘心開始日より4日遅い9月30日からであった(表1)。

(2) 採花時期

採花盛期はカルテット系では10月下旬から11月上旬、シンフォニー系は品種によって差があり、シンフォニーホワイト、シンフォニーラベンダーは10月下旬から11月上旬、シンフォニーレッドは11月中下旬であった。摘心時期の違いによる開花期の早晚については一定の傾向は見られなかった(表2)。

(3) 切花品質

切花長はシンフォニー系では100~110cm、カルテット系では70~80cmであったが、いずれの品種でも出蕾前の摘心で最も短くなった。分枝数は出蕾前で5~6本と、他の区より2本程度少なくなった。最大分枝長は無摘心で最も短く、出蕾前で最も長くなり、出蕾期、頂花破蕾期、頂花着色期と摘心が遅くなるにつれて短くなる傾向が見られた。初生分枝の発生位置は出蕾前で最も低く、切花の下から1/3程度の位置となった。他の区では切花のほぼ中央からの発生となったが、摘心が遅いほど高くなる傾向があった。

表1 摘心時期の品種間差異

品 種		出 蕾 前		出 蕾 期			頂花破蕾期		
		摘心日	摘心位置 草丈 (cm)	摘 心 開始日 (月日)	摘 心 終了日 (月日)	摘心位置 草丈 (cm)	摘 心 開始日 (月日)	摘 心 終了日 (月日)	摘心位置 草丈 (cm)
シンフォニーホワイト	全品種 9.13 摘 心		23.1	9.20	9.30	41.8	9.28	10.10	68.4
シンフォニーラベンダー			26.0	9.23	9.30	45.2	10. 2	10.10	73.7
シンフォニーレッド			25.1	9.24	10. 3	43.9	9.26	10.10	72.6
チェリーカルテット			17.5	9.20	9.28	30.5	9.28	10. 6	49.3
アプリコットカルテット			20.6	9.18	9.27	30.4	9.28	10. 5	51.6
ブルーカルテット			20.4	9.20	9.28	31.8	9.28	10. 6	54.7

表2 摘心時期別の切花品質

品 種	摘心時期	採花盛期 (月日)	切花長 (cm)	分枝数 (本)	最 大 分枝長 (cm)	初生分枝		開張幅 (cm)	切花重 (g)
						節位 (節)	高さ (cm)		
シンフォニー ラベンダー	無 摘 心	11. 3	113.7	7.6	35.2	39.1	57.1	26.0	164.9
	出 蕾 前	11. 3	100.9	5.9	54.1	31.6	37.9	26.6	149.1
	出 蕾 期	11. 3	111.3	8.2	41.7	39.0	54.5	28.7	211.1
	頂花破蕾期	11. 3	115.1	8.1	40.3	40.6	59.0	27.1	169.3
	頂花着色期	11. 4	107.2	8.0	35.8	40.8	57.6	25.0	168.5
アプリコット カルテット	無 摘 心	10.29	75.9	6.3	26.9	33.8	35.8	19.3	130.5
	出 蕾 前	10.26	68.9	4.9	35.7	30.0	28.7	18.6	132.3
	出 蕾 期	10.26	70.0	7.3	28.7	31.4	32.9	18.7	141.4
	頂花破蕾期	10.28	72.3	7.9	29.1	36.0	35.1	22.3	160.8
	頂花着色期	10.30	73.7	6.9	29.7	34.3	36.1	19.9	139.2

注. 切花調査は5輪開花時とした
開張幅：花穂間の広がり幅

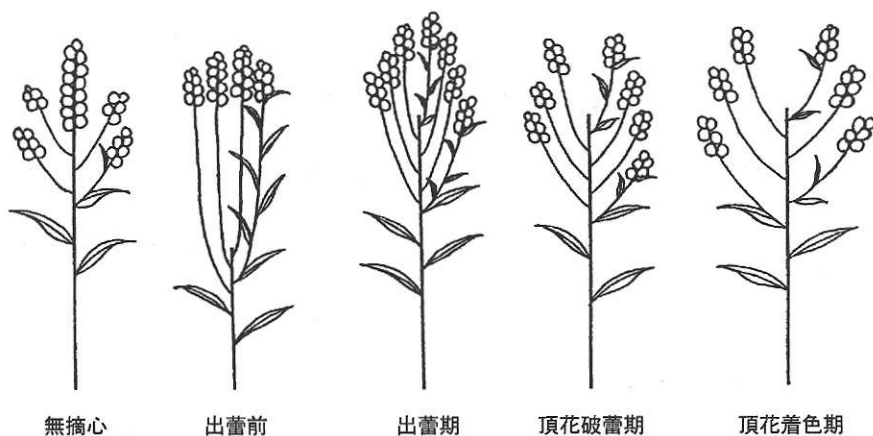


図1 摘心時期の違いがスプレーストックの草姿に及ぼす影響

(表2)。また、摘心時期の違いがスプレーストックの草姿に及ぼす影響について模式化したものを図1に示したが、摘心が遅くなるほど花穂の上部が開き、摘心跡が目立つ草姿となった。草姿として全体的に茎葉のバランスが良いと思われるものは、シンフォニー系、カルテット系ともに出蕾期に摘心したものであり、分枝数が7～8本程度で、初生分枝発生の高さは切花長のほぼ中間の位置になり、分枝長も30～40cmであった。ただし、カルテット系については頂花破蕾期の摘心でも出蕾期の摘心に準じる切花が可能と思われる。

4 ま と め

スプレーストックの摘心時期の違いは少なからず草姿に影響を与えることが明らかとなった。摘心時期が早いほど摘心位置は低くなり、分枝長は長くなった。摘心が遅くなると花穂の上部が開いた草姿となった。

草姿として全体的に茎葉のバランスが良いと思われるものは、シンフォニー系、カルテット系ともに出蕾期に摘心したものであった。ただし、カルテット系については頂花破蕾期の摘心でも出蕾期の摘心に準じる品質の良い切花が収穫できるものと思われる。